

ブルジョアイズメイズニュース-5

六甲部 E M C 事業主査 小野 勅紘 (西宮)

宝塚クラブ 3月第一例会出席、入会式立会い

3月12日(水)

待ちに待った今年初めての入会式に立ち合うことが出来ました。思えば昨年11月に神戸ポートクラブの入会式に立ち合ってから4か月目。今期で一番長い待機期間でした。春の訪れとともに、せっかく咲いた桜が散らないように、この勢いで入会式ラッシュ・・・と思い描きながら、阪急宝塚南口駅に降り立ちました。

本日入会式に臨まれたのは姫路から来られた**沢田 郁(かおる)**さん。背が高くスタイルの良い、石田会長推奨のまさに「宝塚花組」に相応しい方ではないかとお見受けしました。この日は姫路から車を走らせてこられたとのことで、「1時間位で着いたからどうってことはなかったわよ」とのこと。開会点鐘、ワイズソング、聖句朗読、Y's ニュース、YMCA 報告などの諸行事は先に済ませてから、入会式に移りました。スポンサーは杉谷和代ウィメンで、この日は京都から為国西日本区 E M C 事業主任も立ち合われて、今期入会者は10人目になりました。目標の11人にあと少しとなりました。皆様「お・も・て・な・し」をよろしく願いいたします。



入会式の後、本日のゲストスピーカーは元日経新聞記者で、シンガポール支局長、ワシントン支局長、日経ヨーロッパ社長、国際部長、論説委員長などを経て、2009年から関学大総合政策学部教授を勤めておられる小池洋次(ひろつぐ)先生。総合研究開発機構理事他などの要職も兼ねておられる。本日は私も興味を持っているシンガポール元首相であった「リー・クアンユー」について詳しくその業績をお聞きした。題して「リー・クアンユー～小さな国の大きな指導者」。その間、氏の世界各国での活躍ぶりや、国会や中央政庁とのア

アプローチ(有名な政治家との取材での接触された公私にわたるお付き合いなど)も詳しくお聞きし、興味のないお話でした。リー・クアンユーと対比したマルコス前フィリピン大統領のお話も同世代として興味深い。

小池さんがこれまでに日経で取材した中で最も印象に残っている方は、本日のテーマでもある、リー・クアンユー、稲盛和夫(京セラ創業者)、中川一郎の3人だそうである。最後に氏の監訳になる「リー・クアンユー 未来への提言」と題する本も持参され10冊があっという間に売り切れた。最後の1冊をお譲りいただいた。分厚い本なのでいずれゆっくり時間を掛けて読んでみたい。

私事で蛇足ですが、リー・クアンユーやシンガポールについては予めから興味を持っていました。それというのは、以前東京在勤時に社内組合の副書記長兼会計を担当していた折に、一緒に活動していた書記長が、その後シンガポールの有名な大企業チャンギ国際空港の工事の責任者として携わっていたからで、噂には聞いていたが、いずれその様子を一度見てみたかったからでもあった。末の妹の夫が豪州勤務になり2007年12月に、夫婦で兄妹たちを招待してくれた時に、行き帰りともトランジットでチャンギ国際空港に立ち寄って、その威容さに圧倒された経験がある。

以上